

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和2年度 第2回 伊達市健康づくり推進協議会定例会議		
議 題	(1) 令和2年度保健事業実施状況（中間）及び令和3年度への課題 ①「第2次伊達すこやか親子21」 ②「第2次健康づくり伊達21」及び各種健（検）診事業		
開催日時	令和2年12月 書面開催		
場 所	書面開催		
出席者	委員15名（書面開催）		
	所属部課名	健康福祉部健康推進課	
公開 非公開 の別	<input type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

【会議の概要】

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催とした。
- ・資料郵送の際に意見書を同封し、事業内容等への意見を求めた。

【提出意見等】

- (a) 今年度は新型コロナウイルス感染症対策もあり、保健事業の実施は困難であったと思われるが、中止の判断やオンラインの活用など、次年度にも生かせる改善がみられたことは素晴らしい。

事務局

開催の中止または延期、開催方法の変更など感染症対策を講じながらの実施となったが、市民の皆さんのご協力により取り組むことができた。今後も感染症対策を行いながら、市民の皆さんの健康増進が図られるようすすめたい。

- (b) マタニティ教室において、参加者の全てが夫や家族との参加であったことは素晴らしいと思う。案内など、何か工夫をしたのか。また、先輩パパママの参加など、オンラインで実施した結果はどうであったか。積極的にオンライン活用を行ったことは素晴らしい試みである。

事務局

前年度までの案内方法から大きな変更はない。全ての参加者が配偶者との参加であった理由としては、今年度は新型コロナウイルス感染症のまん延などから入院中の面会禁止や立ち合いの禁止などもあったため、妊婦さんやその家族の不安も大きかったことあるのではないかと考える。

先輩パパママ交流はこれまでも参加者の満足度の高い項目であり、オンライン実施の場合も、その傾向は同様であった。しかし、参加者からの積極的な質問が出にくいなど、オンライン形式での様々な課題も見えたところである。

今後も、参加者のニーズに合った実施方法を検討していく必要があると考える。

- (c) マタニティマークは全ての妊婦に交付しているとのことだが、実際に身に付けていた人はどのくらいか。また、案内方法は。マタニティマークに関する不安を抱える妊婦や家族はいなかったか。地域に普及するためには、妊婦が安心してマタニティマークを身に付けることができるような働きかけも必要である。

事務局

マタニティ教室に参加された方のマタニティマークの利用率は75%となっている。また、4か月健診でのアンケート結果によると、利用率は79.8%となっている。母子手帳交付時の配布とホームページ以外での案内は実施していないが、マタニティ教室のアンケート結果より、マタニティマークの効果の実感についての項目では、周囲のやさしさやサポートを得られたという意見が多く、不快な思いや危険な思いをしたという意見は聞かれていない。今後も妊婦さんが安心してマタニティマークを身に付けることができるよう、地域全体へのマタニティマークの普及について検討していきたい。

- (d) 父親の育児協力について、全年齢を通して良い結果であるが、回答者は誰か。育児協力といっても夫婦間の認識に差があると思われる。

事務局

回答者は主にお子さんの世話をしている方であり、妻または夫どちらの場合もあるが、妻が主たる保育者となっている家庭が多いと思われる。パートナーのサポートは主たる養育者の心身のケアに影響する場合もあるため、今後も家庭内のサポート状況や傾向を把握し、子育て支援につなげていきたいと考える。

- (e) コロナ禍において、子ども達をはじめ保護者や教職員も臨時休校や活動の自粛など、様々な影響を受けてきたが、この辛抱と協力が市内での感染リスクを下げ、安全を守ってきたということ、健康推進課から学校の始業式などで伝えることができれば子供達の心に成功体験として刻まれ、「正しい健康行動」が実践できる人間に育っていくのではないかと考える。

事務局

市民の皆さんの感染防止対策へのご協力により、この地域における急激な新型コロナウイルスの感染拡大を抑制出来ているものと考えている。

今は密を避ける観点から直接、児童生徒に伝えることはできないものの、感染症を正しく理解し、一人ひとりの行動により感染拡大を抑制出来ていることを実感することは、これから正しい健康行動を実践していく上での大きな学びになると考えている。このため、感染症終息後においてもこの経験を未来の子どもたちに健康教育等で伝えていくことが重要だと考える。

- (f) コロナ対策として、低栄養など健康への不安が多い対象者に講話を行ったことは素晴らしいと思う。時間があれば食改さんのレシピ紹介と合わせて、老人クラブや自治会などにも展開してほしい。

事務局

コロナ禍において、老人クラブや自治会などでは日頃の活動が休止されている状況ではあるが、今後も活動状況を確認させていただき、感染対策を講じながら、食についての正しい情報提供を行っていきたいと考える。

- (g) 食育に関する情報交換の関係部署はどこか。また、その結果は。

事務局

現状の取組についての情報交換と情報整理を行うため、まずは庁内関係課（高齢福祉課、農務課、商工観光課、食育センター）及び健康推進課の5課の実務担当者（栄養教諭2名含む）で行った。今後は食育の関係団体の皆さんにも出席いただきながら食育の取組状況や課題点について意見交換等を行い食育の推進を図っていきたい。情報交換の結果より、食育の共通の課題点として、自身の体格が正しく認識されていないことや欠食についてあげられた。幼い頃の食習慣は将来の生活習慣病や健康寿命にも大きく影響すると考えられるため、今後も課題の改善に向けた取組みを行っていきたい。

- (h) ウォーキングについての広報記事掲載は「広報だて」か。また、それ以外にもあるか。ワイラジオなども活用して欲しい。血液検査結果別の運動方法について、健診結果に同封したとのことだが、今後、その他市民にも伝える予定はあるか。

事務局

広報紙への掲載以外にも、健康意識が高まっている健診結果送付時に運動方法についてのチラシを同封している。また、このチラシは健康相談や特定保健指導においても活用している。

今回のご意見を参考に、今後、市民への周知に向けてフェイスブック、地域での健康教育等に活用していきたい。

- (i) コロナ対策のために中止という事業が多くなってしまうが、今後、集合型以外の取り組みがされることを期待する。他市町村の取り組みを参考に、伊達市でも積極的に取り入れてほしい。

事務局

成人・母子の健康づくり活動については、コロナのまん延状況に応じて、感染症対策を講じながら実施している状況である。

コロナ禍における各年代に対する健康づくりは、前述のマタニティ教室をオンラインで試行実施したように、ニーズに合った方法や内容について、今後も検討しながら実施していきたいと考える。

- (j) 健康づくりサポーター事業について、懇話会の内容を協議会でも示していただきたい。また、懇話会の2回目は出席可能者が少なく中止となったが、サポーターからどのような意見が出されたか伺いたい。

事務局

健康づくりサポーター懇話会では、サポーター活動を知っていただく場として実施していた健康フェスティバルの効果について協議し、より多くの方に活動を知っていただくための効果的な方策を検討することとなった。また、その検討のために各団体にニーズ調査を実施した結果、健康づくりに関心が高い傾向がみられたが、サポーターの活動内容等について年代や性別、団体種別に応じた周知方法を工夫する必要があるとの結果が得られた。

サポーターからの意見としては、コロナ禍の中、オンラインなどを活用した取り組みを行うようになったことやサポーター事業を活用したくなるようなきっかけづくりができれば良いなどの意見が出されている。

以上を基に、より多くの皆さんにサポーター事業を活用いただけるよう取り組みを検討している。内容がまとまり次第、次回の推進協議会で報告し、よりよい事業となるよう、協議していきたい。